

令和５年度 第３回 碧南市介護保険運営協議会会議録

1 日時

令和５年９月２８日（木） 午後１時３０分～午後３時１５分

2 場所

碧南市役所 ２階 会議室１

3 出席者

(1) 委員

三島博、小田直樹、大田康博、堀尾静、下村美幸、沢井智美、杉浦浩二、
榊原由太郎、禰亘田悦子、杉浦信子、磯貝靖子、磯貝厚子、鈴木礼子、
井上卓、小林清彦（計１５名）

(2) 事務局職員

健康推進部長 山田昌宏、高齢介護課長 伊藤正博、健康課長 金原厚夫
高齢介護課課長補佐 杉浦洋子
高齢介護課課長補佐 伊藤博之
健康課課長補佐 石川麻子
高齢介護課介護保険係長 岡本東子
高齢介護課主査 加藤徹
株式会社明豊 渡邊陽介 ※第９期高齢者ほっとプラン作成支援業者
（計９名）

4 傍聴者

１人

5 議題

- (1) 介護保険・高齢者福祉にかかる課題について（資料１）
- (2) 高齢者ほっとプラン素案（第２章）について（資料２）
- (3) 高齢者ほっとプラン素案（第４章）について（資料３）、追加資料

6 議事録

【事務局】：開会のあいさつ

【会長】：あいさつ

【事務局】：議題(1)の説明 資料 1

(株式会社明豊)

※健康とくらしの調査、要介護認定者等を実施した調査（碧南市介護保険・福祉に関するアンケート調査）を改めてとりまとめ、ほっとプラン素案の3つの目標に向けて、重要になってくると思われる課題を整理したもの。

【A委員】

- ・資料1、p 5、「介護についての不安なことや悩みは誰に（どこに）相談するかについて、地域包括支援センターが0.3%と最も低くなっています」とあるが、何と比較しているのか？元の資料には、家族等他に選択肢がある中の一つに地域包括支援センターが挙がっていた。これだけを見ると低さが際立ってしまう。見せ方に工夫がいるのではないか。

【事務局】

- ・このアンケートについては介護認定者向けのものとなっていますので相談先はケアマネージャーが主な回答になっています。介護認定者は、地域包括支援センターへの相談段階を過ぎた方々です。委員のおっしゃる通り、資料の見せ方には気を付けていきたいと考えています。

【B委員】

- ・碧南市はフレイルと認知症の傾向にある高齢者が多いとあり、本当にそうなのかは疑問があるが、こうした人達を早めに見つけるには市の実施している老人健診の健診率を上げていくのが重要になってくる。現状、対象者の6割程度の受診率だと思う。
- ・認知症の方をどうするかが大切。認知症はその人だけの問題ではなく、家族や市民生活を含めての問題。これを受け入れて市の施策に大きく取り入れていただきたい。
- ・在宅医療希望者71.5%。地域包括ケアシステムでは、多職種協働、連携をどうとっていくかが重要になってくる。在宅医療の実践度を測る目安に、在宅死というもの

がある。家で看取るもので、その割合は全国平均 14%。碧南市は 20%を超えていて高く、碧南市の在宅医療の在り方としては決して悪くない。

【事務局】

- ・認知症の対策の必要性、在宅医療の現状について認識いたしました。今の取り組みを永く続けていけるようにしたい。

【C委員】

- ・アルツハイマー病の予防新薬について、碧南市はどう考えているか？

【B委員】

- ・新しい薬への対応はこれから。新薬はコストが非常に高く、適用が厳格。どういう方に使うのかということが明確に出てこないと言医療の現場では使えない。アルツハイマー認知症については特効薬がない。

【D委員】

- ・課題を考えるにあたり、今までの取り組みに効果があったのか？こうした取り組みをしたけれども、効果がなかったのをやめるというような、課題と取組の在り方について、もう少し書いてもらいたい。こうしたことをやってきました。今後、こうした取り組みをやっていくという書き方がでは、どんどん対策が増えていく一方になってしまう。
- ・2020年から2021年にかけてはコロナ禍という言葉で実績が伸びなかったと評価してもよいが、昨年についてはそのような評価を下していいのか疑問がある。
- ・今月中旬、オランダ、ベルギーに視察に行ってきた。現地では安楽死や認知症についての課題を聞いてきた。その中で、高齢者に行政が楽しみにできる場を提供することがよいことなのか疑問に感じた。例えば、デイサービスに参加してもらうなど、既存の機能を活用していくことを検討すべきだと感じた。また、それ以上に高齢者には余暇を充実してもらうのではなく、刺激となる仕事を通じて社会参加を促していけるとよいのではないかと感じている。
- ・碧南市の80代の数値が他の自治体よりリスクが高いという結果に疑問を感じる。

【事務局】

- ・健康とくらしの調査の中で、80歳以上、85歳以上の後期高齢者にはいつてしばらくしてからの方々の年齢の低下割合が高いことについては、原因がまだ探れていません。この状況を念頭において、ポピュレーションアプローチに取り組んでいく必要があると認識しています。
- ・また、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施という事業を来年度から開始します。これを実施する上でも、75歳以上、特に80、85歳以上の方の状況を踏まえて事業企画をしていきたいと考えています。

【D委員】

- ・他市と比較することが有用なのか疑問。前回の調査との比較が大事ではないか？

【事務局】

- ・今回2章でお示しした調査は、年代に関係なくまとめたものを前回（3年前）調査と比べて示しています。年代ごとに特徴があるかは確認していきます。

【E委員】

- ・資料1、5pの「認知症ケアパスの周知・活用」を今後どのように考えているか？
- ・認知症というと家族の視点と本人の声が一つにまとめられてしまい、本人の声が届かないことがある。アンケートの結果を見ると家族の声が多い。本人の声をどのように施策に含めていくのか？
- ・認知症理解の促進について。認知症に興味のある方はイベントに来るが、関心のない人にどうアプローチしていくか。

【事務局】

- ・認知症ケアパスについては窓口で周知している。活用方法については、うまくできてないのが現状です。今後、ご意見を伺いながら、周知活用等を考えていきます。
- ・アンケートには本人の視点でなく家族の視点である、ということについては委員のおっしゃるとおりの状況だと認識しています。しかし、本人視点をどう盛り込むの

か、難しく悩ましいところです。今、認知症家族の集い・本人交流会、チームオレンジファミリー碧の活動に認知症当事者にも参加していただきます。その声をいただきながら、事業の取り組みに活かしていきたいと考えています。また、本人視点を計画にどのように書き込んでいくかについては、いただいたご意見を参考にさせていただきたいと考えています。

- ・ 9月24日、シアターサウスでイベントを開催しました。こうしたイベントには、関心のある方が来ていただいています。関心のない方へどう伝えていくかにつきましては、キャラバンメイト連絡協議会、碧南市介護サービス機関連絡協議会等々に協力をいただきながら検討して進めていきたいと考えています。

【D委員】

- ・ デイケア（リハビリ）の充実が国の方針であるが、なぜ課題として挙がってこないのか？

【事務局】

- ・ リハビリテーションの提供状況の課題については、サービスの加算の状況等を含めて現状を分析していきたいと考えています。
- ・ リハビリの充実の方針は国の基本方針に記載されていますが、現状、この視点に則ったデータはサービスの利用状況しかありません。今後、調べていきたいと考えています。

【事務局】：議題(2)の説明 資料2

p 15 一部資料修正

※ (2) サービス類型別の受給率のバランス、3行目

(誤)

施設・居住系サービス受給率では、全国・愛知県より低く、愛知県より高くなっています。

(正)

施設・居住系サービス受給率では、全国・愛知県より低くなっています。

【D委員】

- ・議題1で各委員から様々な意見が出たが、それを踏まえて資料2も後日、適宜修正されるのか？

【事務局】

- ・今回は素案として提出しています。各委員の意見を第2、第4章に反映させていくつもりです。

【事務局】：議題(3)の説明 資料3 p28まで

【F委員】

- ・資料3、7p、③老人クラブ活動費助成事業に「特に、若年層（60歳代）の会員の確保に努めます」とあるが、どのような理由か？統計等の根拠があるか？

【事務局】

- ・統計等の根拠はありません。現状、若い人が少ないので、若い人に入ってもらいたいため記載しています。

【事務局】

- ・老人クラブ会員の要件が60歳以上。
- ・老人クラブの高齢化が進んでいる。65歳まで働いている人もいるので、60歳代の加入が難しい現状があります。
- ・碧南市は名古屋市を除く37市の中で、老人クラブの加入率が一番高いという状況です。今後もたくさんの方に加入していただき、活動していただくことが健康を保つのに有益だと考えてこのような記載となっています。

【F委員】

- ・働いているような60歳代の人達を老人クラブの要件とする必要があるのか？

【D委員】

- ・高齢者の定義が65歳以上でよいのかについては議論があるが、老人クラブの会員要件を60歳以上とすることは問題ないと考えます。
- ・春日井市で老人クラブが増えているという話を聞いた。病院のリハビリスタッフが地域の出前講座がきっかけらしく、そうした活動に参加した人達によって老人クラブが発足していったらしい。会の活動によって運動の機会が得られて予防につながるのなら、老人クラブの活動は意義のあるものだと感じている。特に男性は外に出る機会が得られにくいので有意義だと思う。既存の介護施設や病院等を巻き込みながら介護予防につなげることを念頭にいれてもいいと思う。

【事務局】

- ・碧南市には区民館がたくさんあり、それに併設して憩いの家があります。そこで、区の方はいろいろな活動をしています。
- ・老人クラブに入る年代ではない区の方々には、地区の活動に参加していただきながら、後々、老人クラブに入っていってもらえれば介護予防につながっていくと考えています。

【G委員】

- ・老人クラブの平均年齢79、80くらい。なかなか会員が増えないが、どんなことがやれるか考えながら清掃やスポーツ、文化活動等いろいろな取り組みをしている。
- ・老人クラブの組織率は30%ぐらいで県下一位ではあるが、高齢者には今後も参加していただき、いろんなことができるようになるといいと考えている。

【D委員】

- ・春日井市の件に関連して、当方、専門職がたくさんいるので、老人クラブに出前講座ができるので検討してほしい。
- ・老人クラブという名称を変えてみるのもいいのでは？
- ・資料3、p6、シルバー人材センターの件。社会で就労できる方は社会に出て活躍してほしい。就労の場の確保はシルバー人材センターだけでよいのか？
- ・資料3、p23、⑧高齢者タクシー料金助成事業について。碧南市で昨年、タクシー会社が1社なくなり、タクシーを使うのが難しくなる中、高齢者の外出手段の確保が

タクシーだけでよいのかと感じている。デイサービスやデイケアの車が昼間余っている。これを地域の足として使えないだろうかと検討しているところ。高齢者の事故が問題になっている。移動手段がないから高齢者が車に乗らなければならないという社会課題になっている。こうした状況を含めて、事業内容を検討していただきたい。

【H委員】

- ・計画は総花的。予算が限られている中で優先順位が見えてこないところが心配。

【事務局】

- ・計画案に挙げているものは、現在、予算計上し、事業を展開しているものが多く記載されています。優先順位ということではなく、現状の事業をスクラップしたり、今後、どういった事業を行っていくかを考える中で、新たな事業を付け加えるべきものがあれば、追加していくこともあるかと存じます。

【D委員】

- ・計画案にある既存の事業は予算化されて実施するのが前提なのか？

【事務局】

- ・今、事業化しているものは計画案に載せています。新たな事業も出てくると存じます。そうしたものにつきましては、ここで検討する中で、方向性を探っていきたいと存じます。予算がなくてもできるものはあるかと存じます。これは絶対にやったほうがいいというものがあれば、事業として実施できるように努めたいと考えてますので皆様のご意見をいただきたいです。

【D委員】

- ・効果が少ないと考えられる事業を縮小することを会として決めることは問題ないか？

【事務局】

- ・そうしたご意見をいただければ、検討していきます。
- ・また、計画案に載っているからといって、3年間ずっとやりますという固い決意を示したものではありません。3年間の内に、これはやめて、これは変えていくという判断を下していくことは当然やるべきことだと考えております。

【E委員】

- ・資料3、p 11、⑥高齢者見守りネットワーク推進事業について。協定の中で、どんな見守り活動をしているのか？また、今後、どのように推進していくのか？

【事務局】

- ・協定先は64件。新聞店、商店街連盟、スーパーなど多々あります。令和4年度は年間7件事例がありました。新聞がたまっているのを情報提供していただいたり、スーパーで迷っている人がいるという連絡をいただいたりしており、助かっています。

【D委員】

- ・みまもりあいプロジェクトについては、愛知県の国立長寿医療センターでも紹介しているらしい。みまもりあいアプリの紹介をしているらしい。こうしたアプリの活用については今後欠かせないものとなる。愛知県として取り組んでいるものなので、検討してほしい。

【事務局】

- ・今後、参考とさせていただきたい。

【事務局】

- ・第4章の具体的な事業内容について。今まで取り組んできたものを第9期も継続していく部分と、今後重点的にやったほうがいいものを追加しています。後者については、例えば資料3、p 2、⑤高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業。p 3、⑬地域支援センターの介護予防教室等。p 16、④介護離職の防止などがあります。

【D委員】

- ・パット見て分かりにくい。新など表記していただけるとよい。

【事務局】

- ・わかりやすいものにしていきたいと存じます。

【C委員】

- ・資料3、p 11。具体的な事業内容について列挙されているが、現状がよくわからない。啓発等しているのか。具体的に教えてほしい。

【D委員】

- ・事業目標の欄にあるように過去の推移等、内容に数値があるとわかりやすい。

【事務局】

- ・第1回会議の決算資料（資料1、資料2）に実績を載せているので、そちらでご確認いただきたい。

【D委員】

- ・確かに事務局は説明していると思う。しかし、過去の実績、現在、未来の方向性について確認するのがこの資料であると思う。目標値を考えるもの、そうした資料には数値を載せていただいた方がいいと思う。

【事務局】

- ・特にこの事業については重点的に取り組んでいきたいというものは載せています。
- ・事業数が多く、全てのものを載せていくのは難しく抜粋して掲載させていただいています。こちらがより重要だというご意見をいただければ、変えていきたいと考えています。

【D委員】

- ・事業目標の数値目標は重点目標だけ載せているのか？数値化できるものは全て載せ

ていると思っていた。重点目標は誰が決めているのか？

【事務局】

- ・数値化したものだけでなく、事務局の判断で重点的だと思われるものを載せています。
- ・今、数値化されていないものも数値目標を掲げることもできると思われるので、そうしたご意見をいただければと存じます。

【事務局】

- ・全ての事業を数値化して載せていくのは難しいと考えています。そうした中で、事務局の中で重点を置いて、目標を達成したいというものには目標値を付け加えています。
- ・例えば、高齢者見守りネットワーク推進事業については、何年もやっているため、これ以上事業所を増やすのは難しい状況になっています。そうしたものについては、目標値を持つのは難しいため、方向性として示させていただいています。

【D委員】

- ・公的なお金が入っているので、全て重要なのではないかと考えている。
- ・全部の項目に対して、数値化できるものはやるべきだと思う。

【B委員】

- ・市はこの計画を市民の前に提示しなければならない、何をやったのかを示さなければならない、総花的になってしまうのは仕方がない。
- ・また、この会議の中で行政側が、何が必要なんだということをくみ取って、それを市の方針として進めていけばよいと思う。一つ一つを数値化してその実効性を議論するのは無理であると感じている。

【事務局】：議題(3)の説明 資料3、p 29以降、追加資料

※第9期の地域密着型サービスの整備目標案

- ・小規模多機能型居宅介護・介護予防小規模多機能型居宅介護と看護小規模多機能型

居宅介護については、８期に引き続き各１か所とする。

- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護については、現在の需要と碧南市の市域を勘案し、サービス提供に支障はないと判断し、第８期の２か所から１か所に変更する。
１０月に公募を行った結果、応募があった場合、８期中に整備されたものとして、９期計画からは除外する。
- ・小規模多機能型居宅介護・介護予防小規模多機能型居宅介護と看護小規模多機能型居宅介護についても、１０月公募に応募があれば、整備目標を変更していく。
- ・認知症対応型共同生活介護（グループホーム）は、日常生活圏域６圏域に１か所ずつ整備されているので、新規整備はせずにニーズ把握に努める。

【Ｄ委員】

- ・アンケートの中で人材育成の研修を希望することが現場の声であったと思う。資料３、p 38、①介護人材の確保・資質の向上の今後の方向性の中に事業内容の記載がないのはなぜか？

【事務局】

- ・介護人材の確保・資質の向上については、前後に整合性が取れていない部分があるため、整えていきます。

【Ｄ委員】

- ・議題１、資料１、p 8に『人材確保及び就労環境の改善のために必要なことについて、「各種研修や資格取得等に対する受講料補助」が５０．７％と最も高くなっています』とあるので、是非検討していただきたい。

議題終了

【事務局】：「３その他」の説明

【事務局】 あいさつ

終了